

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 影向舎
公演団体名	落語と紙切り

内容

午前 ワークショッププログラム（時間：50分）

* 午前中の授業一枠に収めました。ご希望により延長も可能です。

落語と紙切り、まずどのような芸能か？ → 体験へと進行してゆきます。
体験は落語、紙切りとも全員で一緒に体験できます。



= 意図（知っていただきたい内容）と工夫



= 注釈



ご用意いただくもの

ハサミ

配布するもの

扇子と手ぬぐい
紙（紙切り体験用・点線入り）

落語の部

桂山南 ・ 柳家小傳次



落語の解説

- ・ 一人で上下（左右）を振って、色々な登場人物を演じ分ける
- ・ 小道具は扇子と手ぬぐいだけ。これを色々な物に見立て表現する。
- ・ 噺にオチがある。

この大きな3つのポイントを実演も交え、分かり易く解説。



落語がどんな芸能かを、知っていただきます。

落語の体験

児童・生徒さん全員に、落語家さんが実際に使用する本物の扇子と手ぬぐいをお配りします。

2班に分かれ、片方が演じ（体験）ているのを鑑賞します。

まずはお手本を観ていただき、全員で体験！

<小南・班>	= 扇子	「おそばを食べる」
<小傳次・班>	= 手ぬぐい	「おいもを食べる」

みんな美味しそうに食べられるかな？



本物の小道具（扇子・手ぬぐい）に触れる。実際に演ってみると結構難しい技であることを知る。鑑賞されながら行くと真剣に取り組んで頂けるようです。





1 紙切りの解説

- ・色物の代表的な芸。
- ・お客様から「お題」（リクエスト）をいただいて切り上げる。
- ・一筆書きのように切ってゆく。
- ・ハサミより紙を動かしながら切る。



紙切りがどんな芸能かを、知っていただきます。



2 紙切りの体験

まずはお手本を観ていただきます。

手元カメラで八楽さんの紙切りを投影しながら、紙切りのやり方を学びます。

その後、みんなで「蝶々」を切ってみます。

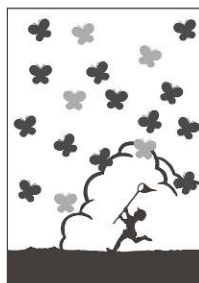
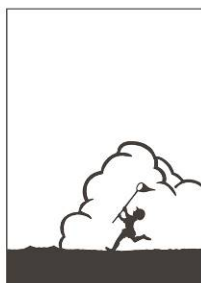
（点線のついた紙を切る→点線のついていない紙を切る）

上手に切れている児童・生徒さんを、二楽師匠と八楽さんが選びます。

（各学年1名が目安）

選ばれた児童・生徒さんは、本公演の「紙切り大喜利」にご出演いただきます。

大きな紙に、みんなが切った蝶々を貼ろう！



ワークショップ後、上の「虫取り少年」の台紙に自由に自分が創った蝶々を貼っていただきます。

紙切りは白と黒の世界観なので、蝶々は色付きの紙で切っていただきます。

児童・生徒さんが切った色とりどりの蝶々が飛び回ります。



紙切りの難しさを知っていただく。切った蝶々が作品となる喜びを感じていただく。



*上の「虫取り少年」台紙は当方でご用意します。

*けがの危険性には配慮しながら進行しますが、学校様のご判断で学年単位に変更が可能です。



タイムスケジュール

舞台準備	10:00～12:00
客入れ(入場)	13:15～13:30
ワークショップ	13:30～14:20
片付け	14:20～16:30

※会場の構造により、片付け終了が遅くなる可能性があります。
※同日にワークショップ、本公演を開催する場合の時程について、
本公演内タイムスケジュール項をご参照ください。

派遣者数

出演者:4名 [主指導者 1 名、補助者 3 名]
スタッフ:2名
合計:6名

学校における事前指導

事前の準備、指導は特に有りません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一
本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 影向舎
公演団体名	落語と紙切り

演目
午後 本公演プログラム（時間：95分） 第一部ではオーソドックスな落語と紙切りを、そして第二部に二つが合体した「紙工劇落語」をご鑑賞いただく趣向です。 ----- ✂ ----- 第一部 1 客席入門 桂心南 客席がどんな劇場かを、映像を交えながら解説してゆきます。 ○寄席 落語（と色物）の専用劇場が寄席 一年中、休むことなく公演が行われている ○下座 舞台袖で三味線、太鼓、笛で音楽を担当するのが下座 下座の楽器は三味線、太鼓、笛 太鼓が物を言うような様を説明 公演前「一番太鼓」はドンドン、ドントコイ（来い）、 公演後の「追い出し太鼓」はデテケデテケデテケ（出てけ） ○座布団 座布団には一辺だけ縫い目がないところがある、それが正面 ○寄席文字／めくり 出演者の名前が書かれた紙が「めくり」 寄席文字は出来るだけ余白がないように書く、これは一枚の紙（めくり）を客席に見立て、お客様の頭でいっぱいになるようにと願いが込められている



2 紙切り 林家二楽

プロの妙技をご覧ください。

児童・生徒さんから「お題」リクエストをいただき、お囃子に合わせて即興で切り上げます。

驚きと感動の連続です。





3 落語 柳家小傳次

* 雷門小助六、金原亭馬治 など他の若手真打に変更の可能性あり。

本格派の真打による古典落語を一席お楽しみいただきます。

定番の分かり易い演目を演じます。

落語は演者（落語家）とお客様（児童・生徒さん）と一緒に
創り出す芸、創造を膨らませて大いに笑いましょう。

お仲入り（休憩）

第二部



4 紙切り大喜利

ワークショップで選ばれた児童・生徒さんによる、
大喜利のコーナーです。

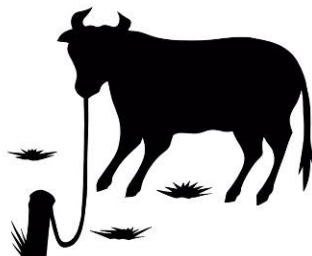
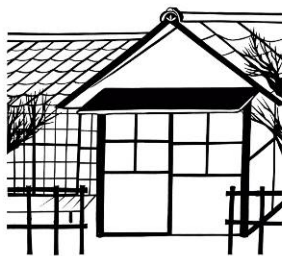
切る内容は自由、どんな作品が出来上がるかな



5 紙工劇落語「牛ほめ」など 桂山南 & 林家二楽

落語、その言の葉をハサミが切る

落語に合わせて紙切りが展開。スクリーンに投影される
奇想天外の絵が嚟をより膨らませます。



派遣者数

出演者:4名 [落語家2名、色物2名]
スタッフ:2名
合計:6名

タイムスケジュール

【標準】

舞台準備	9:00～12:00
客入れ(入場)	13:15～13:30
本公演	13:30～15:05
片付け	15:05～17:00

【同日でのワークショップ、本公演実施の場合】

舞台準備	7:30～10:45
客入れ(入場)	10:45～11:00
ワークショップ	11:00～11:50
昼食・休憩	11:50～13:15
客入れ(入場)	13:15～13:30
本公演	13:30～15:05
片付け	15:05～17:00

※会場の構造により、片付け終了が遅くなる可能性があります。

実施校への協力依頼人員

なし

耳と目で楽しむ

落語と紙切り

古典落語と紙切り → **コラボ** → 紙工劇落語

よせげいのう

寄席芸能はいつも進化しています。

毎日、寄席では落語や講談、色物（話芸以外の目で見て楽しむ芸）が興行され、お客さんを楽しませています。その様子は江戸時代も変わらず庶民の憩いの場でした。これらの寄席芸能は長い歴史の中で、何人もの芸人がその時代時代のお客さんのニーズを取り込み、演じ方を確立して伝承してきました。そして現在も価値観や情勢がめまぐるしく変化しています。そのような時勢に、人々と笑わせて“ほっと”させる寄席芸能は、今のお客さんに向けて新しい可能性を提供する必要があると考えられます。

しこうげきらくご

「紙工劇落語」とは

紙切りの名人として一時代を築いた二代目・林家正楽、その血統を受け継ぐ桂小南（兄・落語家）と林家二楽（弟・紙切り芸人）の兄弟。両者がそれぞれの芸の特質と芸風を融和させて、生まれたのが紙工劇落語です。日本が誇る伝統話芸の落語と寄席演芸の華とされる紙切りが、高座を飛び出し、客席を巻き込みながら展開する紙工劇落語は、他にはない斬新さと分かり易さで、全国の皆様に寄席の世界の魅力をお届けしています。我々が創る「紙工劇落語」は、今の時代における挑戦であり、これからの寄席芸能の可能性です。

落語

一人の噺家が、何人もの登場人物の人格と心情、周りの風景や季節感など、限られた小道具を駆使しながら巧みな話術で、お客様に伝える伝統話芸です。噺の数は、江戸・明治時代からある古典落語のみでなく、現代の事象を組み込んだ新作落語など、噺家それぞれの力量で果てしない数のレパートリーがあります。

紙切り

寄席興行で落語と落語の間で、演じられる話芸以外の演芸を色物といいます。紙切りは色物の一つで、都度客席から注文を受け、それを即座にハサミで切り出します。その特異性から同じ色物の曲芸や奇術に比べると極端に演者が少なく、寄席のみならず学校公演でも希少かつ大変人気の高い芸です。



工夫と特徴



体験（親しむ）そして鑑賞（楽しむ）

ワークショップは児童・生徒さん全員が親しめるように、全員が参加できる体験にしました。そして本公演では大いに楽しんでいただく構成になっています。



映像を駆使した舞台演出

高座の後ろに大きなスクリーンを配した舞台設定。
寄席舞台の背景、解説の映像資料などプログラムの進行に合わせて、様々な映像をスクリーンに投影して演出します。



各々が創作した蝶々が、 おおきな一つの作品に

ワークショップで児童・生徒さんが作成した蝶々を、大きな台紙（「虫取り少年」）に貼り一つの作品に仕上げます。



紙切り作品の展示

林家二楽師匠の紙切り作品を、客席フロアーに展示します。
すばらしい作品の数々は、プログラムの期待を高めます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

<ワークショップ>

落語と紙切りの二つの体験をイーブンに構成、全員が参加できる体験にしました。
また紙切りで蝶々を創作していただき、そして一つの作品に仕上げます。

<本公演>

「大喜利」のコーナーで生徒さんによる紙切り発表

児童生徒とのふれあい

過去の実績ノウハウを生かして、様々な工夫を凝らしています。

様々な角度から落語や紙切りを体験……

「見る・聴く」に加えて「体験」をしていただく為、以下の様な要素を盛り込んでいます。

・落語の仕草の体験

児童・生徒さん全員に、落語家さんが実際に使用する本物の扇子と手ぬぐいをお配りします。
2班に分かれ、それぞれの班が違う仕草を体験。片方が演じ(体験)ているのを鑑賞します。

・紙切りの体験

まずは紙切りのお手本を見ていただき、やり方を学びます。その後、みんなで「蝶々」を切ってみます。切った紙切りの蝶々は、台紙にそれぞれで貼付け、会場の体育館を飾ります。

また、本公演の紙切り大喜利では、児童・生徒さんの代表の方にステージ上で紙切りを実演していただきます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

実施計画書

制作団体名	株式会社 影向舎	団体ID
公演団体名	[C区分]落語と紙切り	K141

[illegible]

